

## 令和元年度第2回四国中央市男女共同参画審議会会議録

1. 開催日時 令和2年1月16日（木） 19時00分から20時45分
2. 場 所 四国中央市市民交流棟 2階 会議室2
3. 出席者 (委員長) 亀岡マリ子 (副委員長) 窪田幸子  
(委員) 加地るり子、宮崎恵、菊池恵子、村上智子、鈴木秀明  
(敬称略)  
(事務局) 政策部長 金崎佐和子、地域振興課長 細川哲郎  
地域振興課女性政策係 山川玲子、上田智安希  
四国中央市議会議長 石津千代子  
(議事調査課) 山内政樹  
(こども課) 星川潤、篠原祥子
4. 傍聴者 なし
5. 会議内容
  1. 開会  
委員長あいさつ
  2. 議事
    - (1) 【関連施策ヒアリング】
      - ・女性議会について
      - ・四国中央市要保護児童対策地域協議会について
    - (2) その他
  3. 閉会
6. 会議録 次頁のとおり

会議録

<p>委員</p>	<p>委員長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●議事(1)女性議会開催の取り組みについて議事調査課より説明</li> <li>●四国中央市要保護児童対策地域協議会について、こども課より説明</li> </ul> <p>説明後、質問を受け付ける。</p> <p>(議事調査課への質問事項等) なぜ女性議員は少ないのか。</p>
<p>石津議長</p>	<p>女性議員が少ない背景として、家庭との両立が困難であることや、家族や周囲の理解が得られないことなどが考えられる。実際に、女性議員も男性議員と同様な活動をしなくてはならない中で、時間の拘束などの問題もあった。今回開催した女性議会をきっかけに、市政に対して女性に身近なものとして関心を持っていただき、今後の市政に女性視点の意見を反映できればと考える。子育てや介護を経験した女性が議員になって、その声をぜひ市政に届けてほしい。</p>
<p>委員</p>	<p>議員になった経緯等についてお聞きしたい。</p>
<p>石津議長</p>	<p>市政に女性の声を届けてほしいという、周囲の人からの強い勧めから決意した。議員になった当時は、議員や関係職員も含めて、議場に女性は自分一人だけという状況で、違和感があった。男女共同参画社会の推進には、男女ともに意識改革が必要であると考える。</p>
<p>委員</p>	<p>(こども課への質問事項等) 支援が必要な家庭等に対して、何か具体的な取り組みはあるか。</p>
<p>担当課</p>	<p>経済的な困難等から、ネグレクト(育児放棄)が起きるケースが高い。支援策として、社会福祉協議会と連携し、物資の提供をしたり、3歳未満の子どもについては保健師との訪問、また保育園への状況確認など、関係機関と連携し、取り組んでいる。近年では産後うつが増加傾向にあり、そういった場合に乳児の預かり先がないことが、問題となっている。各家庭において、さまざまな環境、背景があり、関係機関との連携は必要不可欠である。</p>
<p>委員</p>	<p>通報があったときの体制について、お聞きしたい。</p>
<p>担当課</p>	<p>本庁(三島)、川の江窓口、土居窓口職員を配置し、チームを組んで対応している。通報を受けてから48時間以内に対応するルールのもとで、児相や警察とも連携し早めの対応をしている。その後のケアも非常に重要である。国が毎年11月を「児童虐待防止推進月間」と定め、家庭や学校、地域等の社会全般にわたり、児童虐待問題に対する深い関心と理解を得ることができるよう、期間中に児童虐待防止のための啓発活動を実施している。積極的な啓発活動に取り組むことで、市民の関心も少しずつ高まり、通報件数も増加した。ためらわずに通報してほしい。</p>
<p>委員</p>	<p>多くの人が集まる子育てフェスタなどで、市内の状況について情報発信することも効果的なのではないかと考える。マニュアルは必要だが、もっとできることはないか考えなくてはならない。以前は市内にも産婦人科は多かったが、現在市内では産院は限られてお</p>

委員	<p>り、妊娠、出産の際には市外の産婦人科にかかる人が多く、何かあったときにすぐ相談できないこともある。</p> <p>今後も関係機関の連携や、積極的な啓発活動を実施し、健全に子どもたちが成長するように、取り組んでいただきたい。</p> <p>●議事(2)TOMONI 設立について来年度事業計画について、事務局より説明</p> <p>以上で、令和元年度第2回四国中央市男女共同参画審議会を閉会する。</p>
----	--